



残業は「出来ない人間」を再生産しているだけである！！



残業をすれば労務費コストは25%アップになる。そんなことは誰でもが知っていることであるが、残業はなかなか無くならない。下手をすれば会社のためだからとサービス残業を黙って受け入れているビジネスパーソンも沢山いる。

曜日によって「ノー残業デー」を設けて残業を減らしていく努力をしている会社もあるが、それもごく一部の企業に限られている。

「残業する人」と「しない人」の決定的な差異は一体何からくるのであろうか？

2013年の9月に内閣府がワークライフバランスについての意識調査を実施しているが、長時間残業をしている人ほど、「頑張っている」「責任感が強い」「仕事ができる人」と評価されていると考えている割合が多く、逆に「仕事が遅い」といった否定的に捉える意識は低いという結果が出ている。

すなわち、私たち働く人たちの意識そのものが、

- ① 残業をすればするほど上司が評価してくれていると思っている。
 - ② 残業をすればするほど「責任感が強い人」だと思ってもらえると思いついでいる。
 - ③ 残業をすればするほど「仕事ができる人」だと思ってもらえると思いついでいる。
- 等々にあるということである。

残業して毎日会社に残っている⇒仕事への集中力が低下する⇒残業になるといった悪循環から抜け出せていないということもある。

- ① 仕事が遅い人は仮説検証で動けないから不必要な無駄な情報集めに時間を使う。
- ② 仕事が遅い人は決断が出来ない。
- ③ 仕事が遅い人は集中力が無い。日中、適当に手を抜いている。
- ④ 残業は会社にとって良いことだと無意識のうちに思いついでいる。

また、「何のためにそれをやるのか？」という「目的」が分からずに仕事を行なっている人が非常に多い！！これらは管理者の責任になるが、管理者が無能な職場ほどこれらの傾向は強くなっていく。

- ① 仕事とは「機能」を実現していくことである。

機能とは「目的」と「働き」のことであり、組織の中でこれらが明確になっていない。

- ② 組織の中で、仕事の「目的」が共有化できていない。

- ③ 従って、チームパフォーマンスが低い。

すなわち、管理者が無能だと職場の能力＝パフォーマンスが低下してくるのである。

また、担当者自身も自分自身の絶えざる「改善」が出来ていない！！「改善」が出来ないビジネスパーソンは仕事も出来ないと言える。「無能」と言われても仕方ないであろう。仕事＝作業＋改善だと世の中では定義されているからである。

- ① 余計な仕事はしない！！
- ② 得意ではない仕事まで取り込むな！！
- ③ ボトルネックが把握できていない。
- ④ すぐやる、先延ばしにするな！！

サービス残業がマンネリ化してしまっているということもある。

経営トップ、管理・監督者を含めて、その意識構造が変わらないと残業は無くならない。

人を増やしたら残業が減るといった間違った認識も捨てるべきである！！

人の意識構造や職場体質を変えないまま「人を増やして」も残業そのものは減らないからである。